

## 多治見市合流式下水道改善計画 第2回アドバイザー会議 議事録(概要)

平成 17 年2月1日(火)午後3:00～

於:多治見市役所3F 緑の会議室

出席者:(委 員)坂崎委員, 加藤委員, 横井委員

(事務局)水野下水道課長, 磯村副主幹, 沖本副主幹, 小林総括主査

日水コン 石坂, 稲井

### ■議題

- 多治見市の合流式下水道の現状と具体的対策について(事務局)
- インターネットによる意見募集結果(事務局)
- その他

### ■主な質疑

(未処理放流回数、放流負荷量等について)

委 員:現状の未処理放流回数120回、放流負荷量169tの内訳は。

事務局:未処理放流回数は、処理場から58回、平和町の雨水吐室から62回、合計で120回です。放流負荷量は、晴れの日には処理場から83t/年、雨の日には処理場から71t/年、平和町の雨水吐口から15t/年、合計169t/年です。

事務局:晴れの日には処理場から放流される負荷量83t/年とは、処理場では、晴れの日には年間約1100万トン(H14年度実績)の下水を処理・放流していますが、処理により水をきれいにしても、放流水に含まれる汚濁物質はゼロにはなりません。これが年間83t程度あるということです。

委 員:晴れの日も負荷が出ているということか。図を見ただけではわかりにくい。雨の日には放流している分のみを表現した方がわかり易いのでは。

事務局:ご指摘の点については、説明方法を工夫し、わかりやすいものにしたいと考えます。

委 員:一般の方が未処理下水の放流回数が年平均120回と聞くと、ずいぶん多いと感じるのでは。雨の強さと未処理放流の有無の関係が分かると良いと思う。

事務局:おおむね1時間に3mm以上の雨が降ると未処理放流になっていると思われれます。また、未処理放流のある日を日数でカウントすると約55日程度です。この55日で雨水吐室、処理場のそれぞれで約60回づつ未処理放流しており、合計すると120回/年となります。ご指摘の点については、説明方法を工夫し、わかりやすいものにしたいと考えます。

委 員:雨水吐室からは、15t/年しか出ていないのか。169t/年のうちの15t/年とわずかであるが、対策なしで良いというわけにはいかないのか。

事務局:例えば、紙コップに入った5gの汚れも、バケツに入った5gの汚れも、同じ汚れです。たとえ全体の量と比較してわずかであっても、汚れを少なくするための対策が必要と考えています。

(貯留管について)

委 員:平和町の貯留管の大きさはどの程度か。また、貯留管と滞水池との違いは。

事務局:貯留量は約2100m<sup>3</sup>以上のものと考えています。これは、学校のプール4つ分程度の量で

す。設置するものの形状によって、管形の場合は貯留管、矩形等の場合は滞水池と呼び、役割は同じです。

委員：民地で滞水池を設置する場合、公用地に設置する場合と比べ、土地代が余分にかかる。一番大きなコストは、用地代ではないか。

事務局：ご指摘のとおり、できるだけコストがかからないように、候補地の選定をしていきたいと考えております。

(分流化について)

委員：分流化をするためには、宅内配管をどこまで替える必要があるのか。

事務局：宅内で1本になっている管を、雨水を排除する配管と、汚水・雑排水を排除する配管とに分ける排水設備工事を個人負担で行う必要があります。

委員：各個人に排水設備工事の負担をお願いすることも含めて、分流化する方法はとれないのか。

事務局：特定のエリアを対象に分流化を進める方法もあります。しかし、下流域の環境を守るために金銭的な負担をするということに対し、現時点で特に不自由していない合流区域の住民の方から理解を得られるかどうかという問題があります。

委員：合流改善(分流化)を行うためには、各家庭で何をしなければいけないか、しっかり説明する必要がある。合流改善の必要性や内容を住民に説得することが大変だと思う。

(笠原川右岸ポンプ場の調整池について)

委員：笠原川右岸ポンプ場調整池の運転方法を工夫することで、滞水池として活用できないか。下流の貯留管の大きさを小さくできるのでは。

事務局：笠原川右岸ポンプ場調整池は、浸水対策用の施設であり、ポンプ場の能力を超える雨が降った場合にあふれた水を貯留するものです。

このため、水があふれるまでの間、調整池を空にしておく必要があります。一方、調整池を合流改善目的で利用する場合、雨の降り始めに流れる濃い下水を溜めることにはなりますが、その後ポンプの能力を超える強い雨が降った場合に、それ以上水を溜めることができなくなってしまい、本来の目的を果たせなくなる可能性があり、合流改善目的としてはあらたな貯留管を計画しています。ただし、ポンプ場の能力を超えない程度の雨のときには調整池を合流改善の滞水池として活用することは可能と考えられますので、実際の運用方法、維持管理上のことも含めて、今後検討していきたいと考えております。